

発表者一覧（第1回～第39回）

（発表形態）	（氏名）	（発表タイトル）
第1回 昭和52年11月（1977.11）		
特別講演	リチャード・マッキノン	狂言と現代との接点
特別講演	ドナルド・キーン	日本におけるモダニズム作家について
研究発表	ニコラス・ティール	古今集への影響と古今集からの影響
研究発表	キャサリン・プロデリック	西洋から見た日本の女流日記文学の伝統
研究発表	坂野 信彦	文学研究の中枢概念としての「文学」および「作品」
研究発表	アラン・ターニー	夏目漱石の言語の使用から生ずる翻訳上の諸問題
研究発表	デニス・キーン	「新散文詩」について
第2回 昭和53年11月（1978.11）		
研究発表	糸川 光樹	上代日本文学の時間的研究・序説
研究発表	ヘルベルト・プルチョウ	古代信仰から見た万葉集の羈旅歌
研究発表	長谷 章久	日本文学と風土
研究発表	フィリップ・ハリス	新古今時代における玉葉・風雅歌風の前兆 — 建礼門院左京太夫を中心として —
研究発表	リューベン・ゲーリング	竹園抄とその前後
研究発表	アンドリュー・ガーストル	近松浄瑠璃と音楽の節付
研究発表	潟沼 誠二	高村光太郎におけるアメリカ
シンポジウム	「19世紀における日本文学—近世から近代へ—」 司会：長谷川 泉 講師：前田 愛、ドナルド・キーン、アンドレ・デルティユ	
第3回 昭和54年11月（1979.11）		
研究発表	鄭 清茂	日本の近代文学と中国作家
研究発表	張 良澤	戦前台湾に於ける日本文学—西川満を例として—
研究発表	ケネス・リチャード	『夜の寝覚』構造分析の小論
研究発表	中村 哲郎	西洋人の歌舞伎史
研究発表	ジャニー・バイチマン	子規の晩年の短歌

研究発表 鶴田 欣也 『山の音』における「切り」と「合わせ」のテーマ

シンポジウム 「民間伝承（フォークロア）と文学」

司会：白田 甚五郎

講師：三隈 治雄、リチャード・マッキノン

第4回 昭和55年11月（1980.11）

研究発表 松井 朔子 三島由紀夫の近代能楽「熊野」について

研究発表 ジョン・ツウリト 井伏鱒二の文学の日記

研究発表 ツバタナ・クリステワ 『蜻蛉日記』と『とはずがたり』との考察

研究発表 ルイス・クック 宇治の垣間見について

研究発表 葉 寄民 日中両国における近代詩革命
—「新体詩抄」と「白話詩運動」の比較—

研究発表 李 相濤 和歌と時調の植物素材に関する考察
—万葉、古今、新古今集を中心に—

研究発表 翁 蘇倩卿 梁塵秘抄と変文の関係についての一考察

研究発表 林 雅彦 熊野比丘尼の絵解き—「地獄語りの文芸」試論—

講演 ベルナル・フランク 平安朝の「風流」の一先駆者としてみた源融

第5回 昭和56年11月（1981.11）

研究発表 マーガレット・チャイルズ 文学としての出家遁世談

研究発表 萱沼 紀子 春雨物語—創造性の停滞—

研究発表 ヘレン・イサクソン 国際俳句データベース

研究発表 ドナトゥス・スチュアート 俳句と認識論の革新

研究発表 坂本 秀次 森鷗外・ドイツ留学最後の1年

研究発表 チャン・チアニン 海外における啄木研究・翻訳の動向
—英語圏を中心として—

研究発表 キム・リーチョン 『浮雲』の主人公文三は余計者であろうか

研究発表 ロバート・ブラウワー 藤原定家と新古今時代歌論の諸問題

講演 ブルーノ・レヴィン 明治初期における歌論の独訳

第6回 昭和57年11月（1982.11）

特別講演 ケネス・ガードナー 美術品としての日本の書物

特別講演 ドナルド・キーン 日本古典文学の翻訳について

研究発表	ケネス・ヘンシャル	田山花袋が抱いていた自然のイメージ
研究発表	翁 蘇倩卿	日本近代文壇に於ける『聊齋志異』の受容と変容
研究発表	鶴崎 裕雄	中世後期、古典研究の一側面—近衛尚通の場合—
招待発表	李 栄九	芭蕉俳諧の時間性
招待発表	リージン・オラフ	『風流使者記』から『峡中紀行』へ — 荻生徂徠の紀行文学 —
招待発表	イリーナ・ルヴフ	中世日本の叙事文学における人間描写の原理と方法—『平家物語』を素材として—
招待発表	フランク・ホフ	観客の運命—三つの関係—
研究発表	潟沼 誠二	幸田露伴の外国を見る眼 — 露伴文学の解読のひとつの試み —
研究発表	アンソニー・リーマン	シンボリズムの流行と井伏の『鯉』
研究発表	サミュエル 横地 淑子	大江健三郎とロシアン・フォーマリズム
招待発表	ミコワイ・メラノヴィッチ	古井由吉・古山高麗雄の小説の主人公
招待発表	ジャックリーン・ピジョー	道行文に見る故事について—お伽草子を中心として—
招待発表	ジェームス・アラキ	百合草若の物語の由来
公開講演	ウィリアム・マッカロー	文芸としての日記 — 王朝時代の日記文学を中心に —
公開講演	山中 裕	藤原道長と『御堂閔白記』

第7回 昭和58年11月 (1983.11)

研究発表	チャールズ・クイン・ジュニア	王朝散文の擬集性—時制とアスペクトを中心に—
研究発表	根来 司	源氏物語における虚構の方法
研究発表	古田島 洋介	挿詩文の系譜—日本文学史試論—
研究発表	松原 一義	今出川晴季伝 — 豊臣・徳川政権交替期を生きた一人物 —
研究発表	スティーブ・ラブソン	戦争と詩—与謝野晶子から山之口獺まで—
公開講演	金 一根	十八世紀風刺文学の韓日対比考察 — 朴趾源と平賀源内を中心に —
公開講演	佐伯 彰一	自伝—東と西—

第8回 昭和59年11月 (1984.11)

- 研究発表 ジャック・レヴィ 埴谷雄高における語りの仕掛け
- 研究発表 松井 朔子 『明暗』の視点をめぐって
- 研究発表 チエコ・ムルハーン お伽草子の切支丹シンデレラー「花世姫」「鉢かづき」「姥皮」のモデルと出典の考察—
- 研究発表 山下 宏明 軍記における英雄像
- 研究発表 レボ・キム 日本におけるツルゲネフ受容に関する一考察
- 研究発表 盧 英姫 島崎藤村の『家』と廉想涉の『三代』
—“家”の束縛と崩壊を中心に—
- 公開講演 ハワード・ヒバート 江戸文学のユーモア
- 公開講演 阪倉 篤義 ヲカシの系譜

第9回 昭和60年11月 (1985.11)

- 研究発表 小島 瓊禮 伊豆箱根の本地の形成—東アジアの類話からの展望—
- 研究発表 スーザン・マチソフ 説経正本といわゆる口承文学
- 研究発表 ヨーコ・マックレイン 漱石の虚像と実像
- 研究発表 莫 邦富 プロ文革後の中国における日本文学研究の動向
- 研究発表 狩野 啓子 近代文学における「狂」—石川淳と大田蜀山人—
- 公開講演 フリット・ヴォス ロマンとしての落窪物語
- 公開講演 松村 明 鶴峯戊申『語学新書』とその背景

第10回 昭和61年11月 (1986.11)

- 研究発表 山口 博 8世紀東アジア政治状況の中における万葉集の成立
- 研究発表 村上 史展 古事記と近親相姦
- 研究発表 石上・イアゴルニツァー 美智子 禅文学の特殊性—道元の教えと良寛
- 研究発表 レオン・ゾルブロッド 日本文学における感情の表現
—謡曲『隅田川』の「クドキ」の小段—
- 研究発表 大嶋 仁 没理想論争の今日的意味
- 研究発表 萩原 孝雄 賢治童話におけるイノセンス
- 研究発表 佐藤 マサ子 カール・フローレンツの日本文学史
—上代文学史を中心として—
- 研究発表 ジョン・トリート 現代文学批評によって「文学史」を考えなおす

- 研究発表 鶴田 欣也 戦後日本文学における西洋人のイメージ
- 研究発表 金 鍾徳 『源氏物語』—光源氏の栄華と予言—
- 研究発表 ケネス・リチャード 抜群の古典をよみがえらす加藤道夫作「なよたけ」
- 研究発表 小沢 正夫 竹取物語とフランス中世の短編物語
- シンポジウム 「日本文学史について」
司会：芳賀 徹
出席者：加藤 周一、ドナルド・キーン、小西 甚一
- 公開講演 上田 真 日本文学における「終わり」の感覚
- 公開講演 ジャン・ジャック・オリガス 「寫す」ということ—近代文学の成立と小説論—

第11回 昭和62年11月（1987.11）

- 研究発表 孫 久富 『万葉集』の称讃歌と『詩経』の頌詩との比較—国家形成期における発想の探求を中心とする—
- 研究発表 稲岡 耕二 万葉集の「今夜」・「明日」について
- 研究発表 ヴァレリー・ダラム 近世演劇における八百屋お七像
- 研究発表 諏訪 春雄 からくりと竹本義太夫—人形浄瑠璃史の転換点—
- 研究発表 月村 麗子 シュルリアリズムの絵を先取りした朔太郎の詩
- 研究発表 アイリーン・マイカルズ・アダチ 円地文学における「霊的なもの」
- 研究発表 宋 貴英 をみなへし・あさがほ、そして紫式部のあさがほ
- 研究発表 林 水福 『讃岐典侍日記』の表現
- 研究発表 リューベン・ゲーリング 六条家歌人の個性、特に藤原清輔の場合
- 公開講演 ローランド・シュナイダー 日本文学におけるパロディ—近世的受容方法としてのパロディ—
- 公開講演 パトリック・オニール 曲舞

第12回 昭和63年11月（1988.11）

- 研究発表 楊 永良 中国古典美学と日本民族自然美観の形成
- 研究発表 金 順姫 明石一族にみられる血の誇り—明石一族の上層志向の性格について—
- 研究発表 林 正子 『舞姫』のポリフォニー
- 研究発表 谷 学謙 鷗外文学における眼差し
- 研究発表 望月 洋子 幕末に来日した人々と文学との出会い

- 研究発表 スーザン・ネピア 現代日本幻想文学のユートピアと反ユートピアの概念—安定へのなつかしさ—
- 研究発表 兪 玉姫 芭蕉の季節感—時雨と五月雨を中心に—
- 研究発表 エミ・シンチンガー 歌舞伎の中の「いき」—上方と江戸に於ける助六劇の違い—
- 研究発表 高橋 則子 黒本・青本と浄瑠璃絵尽し本—黒本『こく性や合戦』をめぐって—
- 公開講演 カレン・ブラゼル 阿修羅の変容—須弥山の家から日本の舞台まで—
- 公開講演 郡司 正勝 風流と見立て

第13回 平成元年11月 (1989.11)

- 研究発表 ポール・シャロウ 江戸初期諸文献による男色史
- 研究発表 曹 元春 杜甫の『春望』と芭蕉
- 研究発表 マーガレット・オヤ 江戸時代の漢詩とリアリズム
- 研究発表 金 玉姫 『春雨物語』 「目ひとつの神」の世界
- 研究発表 胡 凱 江戸文壇における『水滸伝』受容の形跡
- 研究発表 小谷野 敦 『里見八犬傳』の龍女たち
- 研究発表 曾 秋桂 夏目漱石の漢詩と小説とのかかわり—『三四郎』における「雲」—
- 研究発表 金子 幸代 日本近代文学における西洋演劇の受容—森 鷗外を中心に—
- 公開講演 スミエ・ジョーンズ 戯作の作者・作者の戯作
- 公開講演 秦 恒平 春琴と佐助—「読む」という事—

第14回 平成2年11月 (1990.11)

- 研究発表 呉 讚旭 「桃太郎」における鬼退治の意味
- 研究発表 ニコラ・リスカーティン 説経節『小栗』における中世から近世へ
- 研究発表 朴 賛基 朝鮮通信使と歌舞伎
- 研究発表 鈴木 健一 虫籠をめぐる詩歌史管見
- 研究発表 葉 英樹 異国で観る月—海を渡る者の詩から—
- 研究発表 張 小玲 森 鷗外の「高瀬舟」と外国文学
- 研究発表 佐野 正人 韓国モダニストの日本文学受容—李箱詩と横光利一をめぐって—

- 研究発表 フィリップ・ガブリエル 島尾敏雄『日の移ろい』試論
- 研究発表 柯 森耀 水上文学と中国
- 公開講演 カレル・フィアラ パラフレーズ分析について—平家物語・章段「殿下乗合」の構成をめぐって—
- 公開講演 福島 和夫 王朝の楽人達—音楽史の一断面—
- 第15回 平成3年11月(1991.11)**
- 研究発表 彭 飛 日本の神話伝説と中国雲南省納西族の神話伝説の諸問題をめぐって
- 研究発表 山口 博 山上憶良歌の梵志体の影響
- 研究発表 片岡 智子 「からころも(韓衣・唐衣)」考—歌語の実態と消長—
- 研究発表 松尾 葦江 源平盛衰記と太平記—方法としての説話—
- 研究発表 明 眞淑 『沈清伝』と近松に見る親子関係
- 研究発表 盧 翠雲 水滸伝と八犬伝
- 研究発表 余 炳躍 夏目漱石と朱子学—「動」と「静」を中心に—
- 研究発表 ミコワイ・メラノヴィッチ 『武州公秘話』における谷崎潤一郎の美学的特質
- 研究発表 許 昊 『金閣寺』論—三島由紀夫の変身物語として—
- 公開講演 日野 龍夫 江戸時代の随筆をめぐって
- 公開講演 ジャン・ジャック・オリガス 遠いものと近いものと—正岡子規の現実意識—
- 第16回 平成4年11月(1992.11)**
- 研究発表 崔 京国 戯作における開帳の見立物研究—いわゆる「とんだ霊宝」の受容—
- 研究発表 エマニュエル・ロズラン 人と名一鷗外の歴史小説と史伝における人名について—
- 研究発表 劉 岸偉 「沈黙の塔」前後の森鷗外—周氏兄弟の目を通して—
- 研究発表 谷口 巖 福沢諭吉とレオン・ド・ロニー—「植えてみよ花のそたたぬ里はなし…」考—
- 研究発表 湯沼 誠二 幸田露伴論—『露団々』と十九世紀の英国文学—
- 研究発表 栗田 香子 幸田露伴と近代—『一刹那』から『弓矢の家』への三角関係の推移—
- 研究発表 中川 成美 モダニズムとしての私小説—「仮装人物」の言説をめぐって—

研究発表 呉 皇禪 中西伊之助と朝鮮文壇—朝鮮プロレタリア芸術同盟の結成と関連して—

研究発表 エイミ・クリスチャンセン 津島佑子と山姥

シンポジウム 「近代化の中の日本文学」

司会：平岡 敏夫

パネリスト：鹿野 政直、ジョン・ウィッテイア・トリート、
亀井 秀雄、ジャン・ジャック・オリガス

コメンテーター：尹 相仁、ウィリアム・ジェファーソン・タイラー、
イルメラ・日地谷・キルシュネライト

公開講演 ヴォルフガング・シャーモニ 文学の「近代化」とジャンル地図

公開講演 ミコワイ・メラノヴィッチ 漂泊者 萩原朔太郎

第17回 平成5年11月（1993.11）

研究発表 項 青 浦島説話と柳毅伝—両作品の文学表現と
神道教思想の受容—

研究発表 ニールス・ゲルベルク 中世文学における講式の意義

研究発表 小島 瓊禮 雪のサンタマリア—キリシタン文学としての
『天地始まりの事』の比較文学的展望—

研究発表 王 建康 近世怪異説話における隠里、仙人と中国道教

研究発表 スワッターナー・オンシリ 羽衣説話の変容の研究—草双紙・タイ国仏教説話を中心に—

研究発表 李 樹果 馬琴の水滸観—水滸の三隠微について—

研究発表 曾 秋桂 「雲」に託す鷗外と漱石の思い—『青年』と
『三四郎』との比較を通して—

研究発表 青山 友子 デイレタント考—木下空太郎の場合を中心に—

研究発表 申 銀珠 <朝鮮>から見た中野重治
—植民地知識人の自画像を求めて—

研究発表 湯沼 潤 能という表現の運命—三島由紀夫の「葵上」を解説する—

公開講演 バーバラ・ルーシュ 女性の出家と古典文学—日本と西洋—

第18回 平成6年11月（1994.11）

研究発表 畑中 千晶 フランス語訳から見た井原西鶴—『好色五
人女』巻三おさんの人物造形について—

研究発表 崔 文正 『太平記』の死の様相と論理

- 研究発表 アレクサンドル・ドーリン 西洋詩歌と和歌の無常観
- 研究発表 蘭 明 「怪しい神」に誘われて—『蓬莱曲』の「鬼」を読む—
- 研究発表 呉 佩珍 永井荷風と『紅樓夢』
- 研究発表 マッシミリアーノ・トマシ 近代日本における修辞学研究の特質
その一つ西洋の修辞学変遷の再現
- 研究発表 相田 満 幕末・明治期の「蒙求」
- 研究発表 生田 美智子 写本『魯齊亞國睡夢談』について
- 研究発表 ロバート・キャンベル 昌平鬻北寮殺人事件
- 公開講演 藤原 鎮男 「英日国文学研究語彙リスト」の作成を試みて—東西の対比—
- 公開講演 ロイヤル・タイラー わがごとくわれを思はん人もがな
—中世フランスから見た王朝の「恋」—

第19回 平成7年11月(1995.11)

- 研究発表 マイケル・ジャメンツ 安居院流唱導における国文学と美術史の連絡
—普賢菩薩・十羅刹女像を中心として—
- 研究発表 李 瑛雅 『今昔物語集』構想に対する一試論—三国構
想における三韓関係説話の捉え方を中心に—
- 研究発表 ボナヴェントゥーラ・ルベルティ 文学と演劇の「引用」の差異について
—本歌取・本説・素材をめぐる一考察—
- 研究発表 米山 禎一 新ロマン主義の再検討—明治28年~大正10年を中心として—
- 研究発表 王 成 福永武彦『秋の嘆き』論
- 研究発表 李 貞熙 安部公房の小説における〈変身〉のモチー
フをめぐる—初期作品を中心として—
- 研究発表 兪 三善 「浄瑠璃」と「パンソリ」作品の感情を模写した
擬音語・擬態語—人物の泣くさまを中心に—
- 研究発表 加賀 佳子 古浄瑠璃『しのだつま』の新趣向—文章
の重なりと「書」の相伝の観点から—
- 研究発表 樹下 文隆 地方諸藩に見る能役者の活動—萩藩・岩
国藩の江戸初期演能記録を中心に—
- 公開講演 松平 進 上方役者絵の特色—ひいきとのかかわり—
- 公開講演 アンドリュウ・ガーストル 享保期の近松浄瑠璃—弱き英雄から強き武士へ—

第20回 平成8年11月(1996.11)

- 研究発表 金 粉淑 『とはずがたり』の夢
— 執着心を超克する女としての二条 —
- 研究発表 南 二淑 和泉式部恋愛詩歌の特徴 — 韓国の女流詩人黄真伊との対比を通して —
- 研究発表 リュドミラ・エルマコワ 『日本書紀』と古代日本文学
- 研究発表 レイン・ラウド 新古今時代における本歌取りの遣い方
- 研究発表 アダム・カバット 鬼娘の系譜 — 黄表紙を中心に —
- 研究発表 ジャックリーヌ・ビジョー 谷崎潤一郎『少将滋幹の母』にあらわれる平安時代のイメージ
- 研究発表 林 嵐 樋口一葉『琴の音』の構想とその基盤
- 研究発表 マリア・デ・プラダ・ヴィセンテ 森鷗外『キタ・セクスアリス』の哲学
- 研究発表 張 建明 横光利一と結核 — 結核的日常と近代人の不安 —
- 公開講演 平岡 敏夫 王朝の〈夕暮れ〉— 芥川龍之介「羅生門」を視点として
- 公開講演 フランシース・エライユ 平安時代貴族社会における作文

第21回 平成9年11月(1997.11)

- 研究発表 劉 魯平 保胤『池亭記』の隠棲思想
- 研究発表 金 京欄 日・韓における伝承のあり方
— 「さよひめ」説話と「堤上」説話 —
- 研究発表 魯 惠卿 泉鏡花『響の一心』論 — 自筆原稿との比較を通して —
- 研究発表 唐 瓊瑜 「二世」から見る、戦前における台湾文学
— 周金波、川合三良を中心に —
- 研究発表 クリストファー・A・ロビンズ 『吉里吉里人』における国家形成と主体性の喪失
- 研究発表 顧 偉良 越境する文学 — 方法としての『由熙』 —
- 研究発表 中根 隆行 谷崎潤一郎「陰翳礼讃」における大衆文化の表象
- 研究発表 米村 みゆき 『風の又三郎』における〈重ね書き〉 — 昭和15年日活映画の受容に着目して —
- 研究発表 タイモン・スクリーチ 人文と科学：最後の境界を超えて
- 公開講演 今西 祐一郎 本文・注釈・絵
- 公開講演 ハルトムート・オ・ロータモンド 和歌から説話を見る — 唱導史の観点を中心にして —

第22回 平成10年11月 (1998.11)

- 研究発表 朴 銀美 『伊勢物語』の構想とその世界—『遊仙窟』と『崔致遠伝』との比較を通して—
- 研究発表 ルクサンドラ・マルジネアン 『井筒』解釈の多義性—婚姻の形態から—
- 研究発表 リュトミーラ・エルマコワ 和歌における空間の渦巻と他界への懸け橋
- 研究発表 岸田 依子 境界と縁—連歌師の旅日記『宗長手記』をめぐって—
- 研究発表 小池 一行 伊達政宗の手紙
- 研究発表 ジョン・ウォーレス 王朝女流日記における境界と心のバランス
- 研究発表 金 仙奇 日露戦争と『陣中詩篇』
- 研究発表 陳 連浚 川端康成の小説の表現—「決して」を例に—
- 研究発表 朴 賛基 朝鮮学士の日記・紀行文に見る朝鮮通信使の旅
- 公開講演 山口 博 境界としての埋甕—海彼・縄文から万葉歌へ—
- 公開講演 ペーター・パンツァー 慶長遣欧使節団をアステカ人歴史家の日記に見る、その経緯

第23回 平成11年11月 (1999.11)

- 研究発表 熊 慧蘇 『通俗唐玄宗軍談』の翻訳の方法—その典拠と翻案の様相—
- 研究発表 アンドレア・ラオス 『定家卿百番自歌合』の「春部」について—和歌の配列をどう読むか—
- 研究発表 ソーニャ・アンツェン 源氏物語の叙述体の翻訳における問題
- 研究発表 鄭 炳浩 実用主義の翻訳から芸術言語の翻訳へ—芸術的翻訳思想の誕生とその周辺—
- 研究発表 李 応寿 『新国王』に現れた韓国観—『アルト・ハイデルベルク』との比較において—
- 研究発表 長島 要一 森鷗外訳ストリンドベリ—『債鬼』から消えたエロス—
- 研究発表 張 栄順 文化の翻訳としての映画物語—谷崎潤一郎「肉塊」を中心に—
- 研究発表 李 郁蕙 台湾の「日本語文学」における翻訳の装置
- 研究発表 カンラヤニー・シタスワン タイ語訳の日本文学
- 公開講演 湯沼 誠二 露伴の時代—日本近代文学史における翻訳とその周辺をめぐって—
- 公開講演 スティーブン・カーター 題詠の翻訳—頓阿の歌をめぐって—

第24回 平成12年11月 (2000.11)

- 研究発表 林 晃平 浦島伝説における画像の諸問題
- 研究発表 松尾 剛次 説経節『小栗判官』成立再考
- 研究発表 リン・K・三宅 画像は千の言葉に価するか—漫画源氏物語—
- 研究発表 鈴木 淳 フリーア美術館所蔵高尾太夫図について
- 研究発表 斉藤 愛 異人種への視線—近代日本の人種観の誕生まで—
- 研究発表 王 麗萍 入宋僧の影像と真讚—旅行記『参天台五臺山記』を史料として—
- 研究発表 ジョシュア・モストウ 百人一首の絵画化—享受と解釈—
- 研究発表 趙 美京 雑誌メディア・小説・映画の交渉に見る〈他者〉の変容—大江健三郎の『叫び声』から大島渚の〈絞死刑〉に至るまで—
- 研究発表 表 世晩 矢野龍溪『経国美談』の空間特質—挿絵とその視線を通して—
- 研究発表 腮尾 尚子 所謂「人生道中図」とその変容
- 研究発表 岩崎 はる子 黄表紙画像の独立、先行性について
- 公開講演 小池 正胤 「行燈の中に座っていた狐」など—文学と美術のはざま—
- 公開講演 王 勇 中国資料に描かれた日本人像—遣唐大使の風貌を中心に—

第25回 平成13年11月 (2001.11)

- 研究発表 マーガレット・キー 箱の中の謎—反-推理小説としての安部公房の『箱男』—
- 研究発表 セルゲイ・チローノフ 大江健三郎の文学におけるタルコフスキーの反響
- 研究発表 徐 送迎 『万葉集』巻頭の「雄略歌」について
- 研究発表 ブライアン・ルパート 中世日本文学における舍利信仰
- 研究発表 エステル・ボーエル 13世紀半ばにおける文学作品の絵画化観—源氏絵陳状をめぐる—
- 研究発表 クレール・碧子・ブリッセ 葦手絵と和歌と—冷泉家時雨亭文庫の『元輔集』をめぐる—
- 研究発表 朴 贊基 『朝鮮太平記』と『伽婢子』の挿絵の類似性
- 研究発表 井田 太郎 抱一筆「吉原月次風俗図」の背景
- 研究発表 マティ・フォラー 江戸時代後期の文学の享受
- 公開講演 木越 治 画像・彫像のテーマから見えるもの
- 文学教育と映像メディア

公開講演 巖 紹盪

「浦島伝説」から「浦島子伝」への発展について
— 亀と蓬莱山と玉手箱についての文化学的解説 —

第26回 平成14年11月 (2002.11)

研究発表 クシシュトフ・オルシェフスキ

二か国語併用と国風文化の創造の問題—『土佐日記』に於ける唐風文化との対話の視点から—

研究発表 黄 幼欣

「宮錦袍」をまとった李白と「恩賜の御衣」をしのぶ菅原道真

研究発表 康 志賢

日韓滑稽文学における対比研究試論—『東海道中膝栗毛』と『興甫傳』を中心に—

研究発表 権 丁熙

「不如帰」の「翻訳」—『小説 不如帰』から『家庭新詩 不如帰の歌』へ—

研究発表 シュリーデーヴィ・レッドイ

雑誌『女人芸術』の座談会における(新しい女)の考察—「多方面恋愛座談会」と「異説恋愛座談会」を中心に—

研究発表 唐 瓊瑜

〈気候と信仰と持病と〉から見る「皇民文学者」周金波研究の可能性

研究発表 金 貞愛

拡散する〈身勢打鈴^{シンセタリヨン}—季恢成「砧をうつ女」にみる朝鮮文化の変容—

研究発表 サワラック・スリヤウォングバイサーン

謡曲「飛鳥川」の作品研究

研究発表 金 賢旭

住吉明神と白楽天—中世における翁の形象化をめぐる—

研究発表 小山 聡子

祭礼行列における童子の職掌—中世前期を中心として—

公開講演 今関 敏子

旅の文化・旅の文学—旅の造型と享受—

公開講演 ジャン-ノエル・ロベール

和歌に依る法華経の解釈—慈円・尊円を中心に—

第27回 平成15年11月 (2003.11)

研究発表 韓 京子

浄瑠璃における「富士浅間物」の展開—『秀伶人吾妻雛形』・『粟島譜嫁入雛形』を中心に—

研究発表 黄 建香

白楽天『白羽扇』等の受容による『源氏物語』の「扇」の意味のずれ

研究発表 寺田 澄江

歌作りということ—和歌史における俊頼の位置—

研究発表 丁 貴連

媒介者としての日本文学—国木田独歩「運命論者」を手がかりとして—

研究発表 阮 文雅

「南方憧憬」と「帝国」の接点—台湾原住民神話に関わる作品・中村地平「太陽の眼」を通して—

研究発表 ステイーブン・クラーク

寺山修司・ミッキーマウス・青ひげ

- 研究発表 ホセア・ヒラタ 創られた被爆者詩人アラキ・ヤサダー 詩に真実は必要か—
- 研究発表 朱 衛紅 佐藤春夫「春風馬堤図譜」の模倣とオリジナリティ
- 研究発表 オウズ・バイカラ 「和製アフロディーテ」の誕生— 谷崎潤一郎の『少年』におけるシンボリズムを中心に—
- 研究発表 デンニツティア・ガブラコヴァ 異文化としての墓地—永井荷風による花の都の再構築—
- 公開講演 坪井 秀人 女の声を盗む—太宰治の女性告白体小説について—
- 公開講演 ジョシュア・モストウ 伊勢物語絵—創造的な模倣と政治的な盗用—

第28回 平成16年11月 (2004.11)

- 研究発表 金 時徳 忘れられた一文芸の系譜
—加藤清正伝承から見た「壬辰倭乱物」—
- 研究発表 吉田 麻子 国学者平田篤胤の著書とその広がり
- 研究発表 岡部 明日香 源氏物語の漢訳受容をめぐる—明治時代を中心に—
- 研究発表 林 淑丹 森鷗外と明清小説『情史類略』—『舞姫』『うたかたの記』『雁』を中心に—
- 研究発表 ズデンカ・スヴァルツォヴァー 現代人の感覚を呼び戻す古典の中の謡曲の役割— 卒塔婆小町の一句の一例—
- 研究発表 楊 琇媚 武者小路実篤における戦争認識の本質—『ある青年の夢』と『大東亜戦争私感』を中心に—
- 研究発表 李 漢正 「言文一致体」を越えて— 谷崎潤一郎における古典を翻訳する意味—
- 研究発表 エドゥアルド・クロッペンシュタイン 近松の霊と21世紀の恋人たち
—連歌・連詩における古典の役割—
- 研究発表 ダニエル・ストリューブ 西鶴と『徒然草』の関わりについて
- 研究発表 マーガレット・チャイルズ 王朝文学における求愛ストラテジーの考察
- 公開講演 ボナヴェントゥーラ・ルベルティ 江戸時代前期文芸における古典教養
—俳諧・浄瑠璃などに見る謡曲の引用—

第29回 平成16年11月 (2005.11)

- 研究発表 陳 斐寧 『大江千里集』の序文から見た「内」と「外」
- 研究発表 エドワード・ケーメンズ 平安朝の和文の日記と漢文の日記
—「ジャンル」に関する一考察—
- 研究発表 顧 偉良 日本文学の発見:俳諧と滑稽の境地—周作人の場合—

- 研究発表 山崎 佳代子 日本アヴァンギャルド詩運動とトリトルマガジン——セルビア文学との比較考察——
- 研究発表 スティーブン・ドッド 力としての病—梶井基次郎の作品に於ける肺結核—
- 研究発表 黄 智暉 馬琴読本における予兆・卜占
- 研究発表 周 以量 文学における近世：タームとメソッド——読本における俗語的表現を視点として——
- 研究発表 井上 泰至 近世軍書の研究に対するアメリカ日本研究の有効性
- 研究発表 ラウラ・モレッティ 海外における日本近世文学の書誌学および文献学的な研究の可能性—実態の困難さとそれを乗り越えるために—
- 研究発表 湯 薇薇 「佳人」から「女志士」へ—宮崎夢柳の『鬼啾々』『芒の一と叢』を中心に—
- 研究発表 マーク・ウィリアムズ 近代日本文学における他者
- 公開講演 ウリエム・ヤン・ボート 皆川淇園（1734-1807）——『淇園答要』と『名疇』の関係について——

第30回 平成18年11月（2006.11）

- 研究発表 中村 綾 『通俗忠義水滸伝』をめぐる諸問題
- 研究発表 梁 瀟嫻 『三国志画伝』における『通俗三国志』の理解——挿絵を手掛かりとして——
- 研究発表 李 偉 江戸時代庭園における西湖景観の表象と表現——漢詩文史料の考察を通して——
- 研究発表 クリスチャン・ペーリン 馬琴の黄表紙における表象と表現の類型に関する試論
- 研究発表 康 志賢 〈膝栗毛もの〉絵双六の表象と表現
- 研究発表 徐 禎完 「伎楽」追跡考—東アジア仮面劇・芸能研究の一端として—
- 研究発表 王 軍合 見ぬ人見ぬ世見ぬ境—幻想された場所として—
- 研究発表 江藤 高志 惜別の抒情—『古今和歌集』源実の惜別の歌群と「をり」の表現意図—
- 研究発表 ジェイミー・ニューハート 『伊勢物語器水抄』における秘伝の意義——帰納的なアプローチによって——
- 研究発表 水野 達朗 従軍と「写真」—国木田独歩の「朝鮮」記事を中心に—
- 研究発表 頼 衍宏 日本語時代の台湾文学—短歌結社「新泉」と宇野覚太郎—
- 研究発表 呉 亦昕 葛藤する「郷土」—呉希望「豚」における植民地台湾の表象—

研究発表 朴 貞蘭 「記憶・忘却」装置としての文学—戦後初期中学校「国語科」教科書を中心に—

公開講演 アハマド・モスタファア 果たして戦後が終わったのか—日本戦後文学史読み直しへの試み—

第31回 平成19年11月 (2007.11)

研究発表 金 学淳 『馬琴日記』と〈異国〉—江戸後期の日常がはぐくむ〈異世界〉への探究心—

研究発表 マシュー・フレーリ 国際人成島柳北の旅した明治日本

研究発表 川邊 雄大 明治初年の東本願寺上海別院における日中文化交流—松本白華・北方心泉を中心に—

研究発表 金 中 夕暮の「待つ恋」の歌—中国閩怨詩との異同を中心に—

研究発表 楊 暁捷 戦場の便り—『後三年合戦絵詞』の一場面をめぐって—

研究発表 顧 偉良 永遠と停頓の詩人・井上靖—青春・太古に響き合う『異国の星』をめぐって—

研究発表 クレアモント 康子 自画像と自我像—渡辺一夫『敗戦日記』を読む—

研究発表 ウルシュラ・スティチェック 日記文学としての原爆文学の考察—原民喜の場合—

研究発表 棚町 知彌 1940年代文学研究の基底—『迷路』を座標としてたどる能楽界の戦中期—

研究発表 郭 南燕 ストリッパー女王からの手紙—長部日出雄の読み方—

研究発表 林 相珉 獄中書簡集『罪と死と愛と』と対話する文学者—金石範『祭司なき祭り』論

研究発表 デンニツィア・ガブラコワ 「木の国」に埋っている言葉を掘り出す—大庭みな子『オレゴン夢十夜』における日記形式—

ポスターセッション アッタヤ・スワンラダー 『土佐日記』におけるみやこへの思いとその象徴

ポスターセッション 張 培華 平安時代における李白考究

ポスターセッション ハラスティ・ジャネット 鴨長明の表現の対話性

ポスターセッション 韓 貞淑 森鷗外「興津弥五右衛門の遺書」における〈遺書〉—その形式と機能をめぐって—

ポスター セッション	曹 英愛	韓国における村上春樹の受容—模倣作品の分析を通じて—
公開講演	エルキン・H・ジャン	『源氏物語』のトルコ語訳について
公開講演	小島 孝之	中世文学における対話
第32回 平成20年10月 (2008.10)		
研究発表	天野 聡一	大田南畝の読本観—芍薬亭長根『坂東奇聞濡衣双紙』から見る—
研究発表	ニールス・ファン・ステーンパール	『官刻孝義録』—幕府仁政のパフォーマンス—
研究発表	丁 莉	物語に見る唐土意識と日本意識—『うつほ物語』、『源氏物語』、『浜松中納言物語』を通して—
研究発表	グエン・ティ・オワイン	ベトナムの漢文逸話における「鬼退治」のモチーフについての比較研究—『嶺南撫怪』を中心に—
研究発表	丁 曼	能『邯鄲』翻訳の過去と現在—中国語訳の諸問題—
研究発表	佐山 美佳	「落下」する物語の行方—モダニスト・横光利一と北川冬彦をめぐって—
研究発表	蘭 明	李箱における横光利一受容の実態及びその深いわけ—一九三〇年代北東アジア文学形成の表象として—
研究発表	陳 ダニエラ	大庭みな子文学における過去と現在の語り方
研究発表	范 淑文	漱石流の写生文—漢詩世界の趣—
研究発表	青木 慎一	石山寺蔵、スペンサー・コレクション蔵、パーク財団蔵「源氏物語絵巻」断簡をめぐって—幻の「源氏物語絵巻」、成立背景とそのゆくえ—
研究発表	金 秀美	『源氏物語』の戸締まり具の解釈—空間表現への視座から—
研究発表	金 裕千	『源氏物語』の紫の上哀傷と平安女人追善願文—韓国の祭亡室文・祭亡女文と関わって—
研究発表	スティーナ・イェルプリン	『源氏物語』のスウェーデン語訳について
ポスター セッション	金 小英	源氏物語の仏教的な表現
ポスター セッション	黄 佳慧	物語が湧き出す三つの場所—『奥の細道』における福島地方
ポスター セッション	梁 姫淑	戦後の張赫宙研究—在日朝鮮人民族団体との関わりを中心に

公開講演	岡田 リチャード 英樹	地球／惑星文学としての物語の可能性と行方
第33回 平成21年11月 (2009.11)		
研究発表	解 璞	『草枕』の「ユートピア」と一人称—語り手の機能について—
研究発表	丁 貴連	一人称小説が描き出す媒介者としての日本文学—国木田独歩の一人称小説を手がかりとして—
研究発表	伊藤 博	語りと人称—葛西善蔵『椎の若葉』論—
研究発表	大澤 聡	私批評と人物評論—一九三〇年前後の文芸批評にみる人称消費の構造—
研究発表	木村 尚志	述懐歌の人称と視点
研究発表	アニタ・カンナ	「今昔物語集」に於ける「天竺付仏前」に関する幾つかの考察
研究発表	山崎 佳代子	アヴァンギャルドと語りの視点—小説『ダダ』と高橋新吉—
研究発表	崔 世卿	西脇順三郎『近代の寓話』論—新資料「かざり」の視点をめぐって—
研究発表	マティルデ・マストランジェロ	円朝に語られた女性—『怪談牡丹灯笼』の「なぞらえる視点」をめぐって—
研究発表	李 賢貞	黙阿弥の明治期歌舞伎における没落士族の表象—「満二十年息子鑑」と「水天宮利生深川」を通して—
研究発表	陳 可冉	林羅山における文章の作法—『古文真宝後集』との関わりに触れて—
研究発表	王 暁瑞	橘曙覧「独楽吟」と邵雍「首尾吟」—漢詩受容と表現形式の形成を中心に—
研究発表	李 忠滸	正成伝説と後期読本—『屏風怨霊四谷怪談』の創作方法を中心に—
研究発表	ロバート・ゴーリ	名所図会の視点について
ポスターセッション	柳内 (小玉) 安恵	物語における話法の視点と機能—村上春樹の作品を例に—
ポスターセッション	アーサー・ミッチェル	モダニズム文学に於ける社会的批判
ポスターセッション	ウルシユラ・ステイチェック	栗原貞子—アナキスト詩人から平和 (主義者) のエッセイストへの変換—
公開講演	イフォ・スミツ	近世日本ヨーロッパ ^{エムブレム} 譬喩画受容: 文と絵の関わり (『訓蒙画解集』を軸に)

第34回 平成22年11月 (2010.11)

研究発表	李 満紅	懐風藻の出現—書物としての漢詩集がなぜ作られたのか—
研究発表	顧 姍姍	日本漢詩における対句の形—平安前期の日本漢詩における隔句対の運用をめぐって—
研究発表	盧 秀満	『夜窓鬼談』と中国の志怪小説—冥界説話を中心に—
研究発表	レベッカ・クレメンツ	江戸時代における『源氏物語』の俗語訳—解釈と弄び—
研究発表	李 美淑	翻訳と日本文学の再誕生—『蜻蛉日記』の韓国語訳—
研究発表	張 龍妹	平安女性叙事文学の誕生を考える
研究発表	任 清梅	『英草紙』の素材選択から見る庭鐘の創作意識—『英草紙』と中国白話小説『醒世恒言』との関係から—
研究発表	劉 穎	日本近世における『智囊』の受容—文学的側面と教学的側面—
研究発表	門脇 大	近世怪異小説と心学—『主従心得草』を例として—
研究発表	メラニー・トレーデ	永享五年八幡縁起絵巻の「ライフ」とその「アフターライフ」
研究発表	トーヴェ・ビュールク	〈助六〉をめぐる江戸中期の煙草文化と歌舞伎における「型」の発展
研究発表	足立 匡敏	与謝野晶子訳『蜻蛉日記』の成立—堺市蔵・自筆原稿の考察を中心に—
研究発表	エドワード・マック	国民国家と文学—北米・南米と改造社の『現代日本文学全集』—
ショートセッション	伊藤 禎子	『うつほ物語』の成立と〈絵解〉の関係
ショートセッション	吉田 小百合	『栄花物語』の夢の可能性—記録から物語世界へ—
ショートセッション	リュドミーラ・エルマコワ	フォークロア学とナラトロジーの間に挟まれた歌物語
ショートセッション	カタジーナ・ソンネンベルグ	思い出す楽しみ・苦しみ—『樋口一葉日記』・『十三夜』・『にごりえ』における回想—
ショートセッション	鄒 双双	佐佐木信綱と『漢訳万葉集選』の成立—銭稻孫との文通を媒介に—
ショートセッション	岩谷 幹子	「名詞」から作られる「時間」—谷崎潤一郎の『痴人の愛』—

- ポスター セッション 山本 美紀 『源氏狭衣歌合』の番の構造—兩作品の影響関係を中心に—
- ポスター セッション 齋藤 桂 オルタナティヴな媒体としての同人雑誌—昭和初期の新民謡雑誌について—
- ポスター セッション アイダ・スレイメノヴァ 形との遊び、またはジャンルの追求—5行、4行、3行で翻訳された短歌、俳句—
- ポスター セッション 小曾戸 明子 『みだれ髪』刊行に学ぶこと
- 公開講演 小山 騰 英国における明治時代の日本研究と書物交流：日本文学の本格的な紹介(翻訳)の前段階として

第35回 平成23年11月 (2011.11)

- 研究発表 糸 汐里 藤沢と『小栗判官』—長生院における享受と再生—
- 研究発表 蔡 佩青 『西行物語』の方法—東海道を歩む西行—
- 研究発表 廖 秀娟 庄司総一「月來香」論—病院、産婆、〈1941〉の台湾—
- 研究発表 林 淑丹 青い鳥の哀歌—澁澤龍彦『画美人』論—
- 研究発表 久保田 裕子 太平洋戦争前後におけるタイ表象イメージの変容と接合
- 研究発表 徐 忍宇 〈ユートピア〉という場所—村上春樹の小説における「あちら側」—
- 研究発表 岩田 陽子 津村節子が描く八丈島—「黒い潮」創作ノートの検証—
- 研究発表 キース・ヴィンセント 失われた欲望を求めて—『仮面の告白』におけるホモソーシャル・ナラティブ—
- 研究発表 丹羽 みさと 岡本綺堂の戯曲「お七」と本郷座
- 研究発表 園山 千里 『落窪物語』の和歌—法華八講との関連から—
- 研究発表 赤澤 真理 王朝における歌合の空間—村上朝天徳四年内裏歌合を受けとめた後冷泉朝期の歌合—
- ショート セッション 趙 軒求 「トボス」としての韓国と日本の戦後の記憶—『広場』と「万延元年のフットボール」にみえる「回帰」と「脱出」を中心に—
- ショート セッション 何 志勇 「敦煌」に見る井上靖の中国地域像—河西回廊の道標的都市をめぐる—
- ショート セッション 陸 嬋 中島敦と南洋

ショート セッション	申 福貞	テキストと〈境界〉の生成—太宰治『津軽』 におけるチェーホフの影響を中心に—
ショート セッション	韓 玲姫	周作人の日本文化観—1930年代を中心に—
ショート セッション	大坪 舞	禁野交野の記憶—持明院基春と鷹書—
ショート セッション	高 兵兵	〈南山〉としての吉野—終南山との関わりを中心に—
ポスター セッション	林 晃平	テキストに潜在する記憶としての異郷 —蜃気楼化する龍宮とその周辺—
ポスター セッション	西 いおり	俳諧文芸と風土—京と江戸を中心にして—
ポスター セッション	岳 遠坤	『雨月物語』における離郷する人たちの運 命をめぐって—儒家思想を背景に—
ポスター セッション	ミッシェル・マイヤズ	明石君と紫上との協働的關係
ポスター セッション	高橋 憲子	上代人にとっての「瀬」—「苦瀬」をめぐる考察—
ポスター セッション	王 薇婷	川端康成「禽獸」の時間と空間
ポスター セッション	趙 楊	中島敦「狐憑」論—無文字社会における「記録」—
ポスター セッション	江崎 公子	楽の変遷—辞書の用例から—
公開講演	崔 京国	江戸時代における「展示型見立て」 —開帳を模倣したイメージの展覧会—

第36回 平成24年11月 (2012.11)

研究発表	金 美眞	種彦合巻『曾我太夫染』における考証の方法 —八つの注釈をめぐる—
研究発表	盧 俊偉	『伽婢子』における典拠の再生—〈批判〉の独自性をめぐって—
研究発表	李 忠滯	近世文学における楠正成伝説の再生 —南朝復興の物語への転換をめぐる—

研究発表	梁 喜辰	失われたテキスト「一九二八年三月十五日」の伏せ字と削除の問題を中心に
研究発表	佐々木 比佐子	茂吉の再生
研究発表	モインウッティン・モハammad	志賀直哉『大津順吉』における「私」の心理
研究発表	高 艶	深沢七郎作品における「前近代」の再生 —『植山節考』と『甲州子守唄』を中心に—
研究発表	南 明日香	描写が再生する日本の風土
研究発表	アレックス・ベイツ	廃墟と再生：田山花袋の関東大震災
研究発表	梁 青	平安朝漢詩の展開 —『新撰万葉集』漢詩と道真詩に詠まれた蜘蛛の糸—
研究発表	アダム・ベドゥナルチク	『看聞御記』に再生した「をかし」美意識としての「殊勝」
研究発表	鷲山 郁子	他者という規制装置—『源氏物語』を題材に—
ショートセッション	タリン・カラヌワット	九曜文庫本『源氏物語抄』と『水原抄』『千鳥抄』『珊瑚秘抄』
ショートセッション	ミッシェル・マイヤズ	『狭衣物語』における身分意識—『源氏物語』との類似点と相違点、海外の研究での評価—
ショートセッション	ライサ・カタリーナ・ポッラスマー	中世文学の模倣やパロディの多面性—『とはずがたり』における『源氏物語』摂取をめぐる—
ショートセッション	金木 利憲	『太平記』『楊国忠事』段所引の『白氏文集』本文の系統と考察
ショートセッション	巖 守潔	平安朝女流文学における螢の心象表現 — 恋心の働きと魂について
ショートセッション	劉 銀晃	日韓関係における『胡砂吹く風』の価値
ポスターセッション	南 徹貞	大江健三郎『治療塔』における死と再生 —「3.11」という“未来の経験”—
ポスターセッション	小田切 璃紗	長谷川如是閑にみる「笑い」— 戯曲『大臣候補』を中心に—
ポスターセッション	水上 雄亮	『諸艶大鑑』における世伝の人物造型についての検討— 世伝は色道の「二代目」たり得るか—
ポスターセッション	顧 偉良	井上靖シルクロード詩集における言語指向 — 素朴的、始源的、直接的な指向をめぐる—

ポスター セッション	西 いおり	日本文化の精神性と枳形本についての一考察 — 『おくのほそ道』の造本を出発点として—
公開講演	戸松 泉	「たけくらべ」自筆草稿を開く—樋口一葉〈書くこと〉の領域—
第37回 平成25年12月 (2013.12)		
研究発表	曹 喜眞	朝鮮の古時調と日本の古典和歌の対比研究 の試み— 自然素材に着目して—
研究発表	マガリ・ビューニユ	『歌舞髓脳記』の諸本をめぐる— 金春禅 竹の芸術理論の成立過程を中心に—
研究発表	パトリック・シュウエマー	有馬晴信のキリシタン語り物『日本に奇跡的に現れた十 字架の事』— イエズス会日本文学運動の研究序説—
研究発表	武田 祐樹	林家の学術と歴史書の編纂
研究発表	井上 泰至	井原西鶴『武道伝來記』論の前提を疑う
研究発表	洪 晟準	『頼家阿闍梨怪風伝』の構造— 唐糸の物語を中心に—
研究発表	劉 穎	西鶴浮世草子の中国語訳についての研究— 銭稻 孫訳『近松門左衛門・井原西鶴選集』を中心に—
研究発表	イムラン・モハンマド	インドに於ける俳句の享受
研究発表	ジャナ・ブラウン	18世紀初頭の人形浄瑠璃における新たな演技の共同体
研究発表	常田 槇子	ヤマタ・キクと能— フランスでの能の紹介と翻訳—
研究発表	胡 穎芝	『草枕』と遊仙文学
ショート セッション	劉 一鳴	『和漢朗詠集』「仙家」部所収の漢詩文の一考察
ショート セッション	生田 慶穂	海外における連歌研究の動向と実作者の活動
ショート セッション	康 盛国	芳洲と『莊子』— 三教合一論へのつながりを中心に—
ショート セッション	大橋 崇行	<キャラクター>からの離脱— 細田守『おお かみこどもの雨と雪』における人物表現—
ポスター セッション	趙 俊槐	忠こそ「孝」と「不孝」について
ポスター セッション	陳 璐	北村透谷試論— 『蓬萊曲』を中心に—

- ポスター セッション 陳 高峰 探偵する形をとったマジック的なりアリズム小説—『色彩を持たない多崎つくると、彼の巡礼の年』論—
- ポスター セッション 潘 明昭 『伊勢物語』六十二段とその周辺—朱買臣説話との比較を通して—
- ポスター セッション 頼 衍宏 続・中島敦「山月記」材源論:『論語』との関連
- ポスター セッション 庄 婕淳 『とりかへばや物語』論—日中比較文学の視点から—

シンポジウム 「テキスト・ジェンダー・文体—日本文学が翻訳されるとき—」
 司会：中川 成美
 パネリスト：呉 佩珍、キアラ・ギディーニ、小嶋 菜温子
 協力：マリア・テレサ・オルシ、シャラリン・オルバー

第38回 平成26年11月 (2014.11)

- 研究発表 高橋 憲子 B.H.チェンバレンによる『古事記』英訳—「枕詞」の場合
- 研究発表 大野 ロベルト 三代集における紀貫之の位置づけについて—詞書をたよりに—
- 研究発表 ジェフリー・ノット 『源氏物語』が語るもの—宗祇『雨夜談抄』が開拓する「読み」とその意義
- 研究発表 黄 昱 『徒然草』における漢籍受容の方法—『白氏文集』の場合—
- 研究発表 尤 芳舟 『十訓抄』における孔子
- 研究発表 ラモーナ・ツアラヌ 「大様なる能」と「小さき能」—能の位とその典拠の正統性をめぐって—
- 研究発表 金 有珍 『秋夜長物語』の絵巻と奈良絵本について—東京大学文学部国文学研究室蔵の絵巻を中心に—
- 研究発表 アンドレア・チェンドム 黄表紙の批判性の再考—青砥藤綱像を使用する寛政年間の黄表紙の特徴をめぐって—
- 研究発表 片 龍雨 鶴屋南北の合巻
- 研究発表 トム・リゴ 多和田葉子とヨーロッパ
- 研究発表 鄧 麗霞 「在満作家」牛島春子の女性文学
- ショート セッション 武藤 那賀子、富澤 萌未 『うつほ物語』と近世国学者—文化三年補刻本『うつほ物語』絵入版本の書き込みから

- ショートセッション アングラエニ・デウイ 否定的な母親像と暗澹たるふるさと
— 坂口安吾から観た「出自」論—
- ショートセッション 刀根 直樹 永井荷風「監獄署の裏」試論
- ショートセッション 西村 峰龍 藤本事件と「熊笹にかくれて」—療養所内での救援活動の実態
- ポスターセッション 川内 有子 『忠臣蔵』の翻訳—日本人の今として、過去として—
- ポスターセッション 関 明子 <資料紹介>鞍馬寺蔵・与謝野晶子自筆歌稿
- ポスターセッション 王 盈文 太宰治「誰も知らぬ」論—オトメ共同体の外縁にある少女表象について—
- ポスターセッション 大石 紗都子 昭和十年代の「みやび」
- ポスターセッション 丁 茹 中国における星新一小説の受容
- ポスターセッション 江草 宣友 国文学論文目録データベースの利用状況に関する考察
- シンポジウム 「図像のなかの日本文学」
司会：板坂 則子
パネリスト：楊 曉捷、アンドリュー・ガーストル、土佐 尚子

第39回 平成27年11月 (2015.11)

- 研究発表 松原 舞 上代日本における文字表記—『万葉集』の「青」と「あを」を中心に—
- 研究発表 マラル・アンダソヴァ 古事記における世界の生成とシャーマニズム—「根堅州国」と「綿津見神宮」をめぐる
- 研究発表 須藤 圭 源氏物語の「女にて見る」をどう訳すか—翻訳のなかのジェンダーバイアス—
- 研究発表 李 相旻 『草庵集』の構成と特性
- 研究発表 川内 有子 欧米における「忠臣蔵」のイメージ形成—大石内蔵助の人物描写について—
- 研究発表 レティツィア・グアリーニ 「父親の不在」を文学は告げている？『なずな』におけるイクメン

- 研究発表 崔 惠秀 中里介山「大菩薩峠」の文体—改稿による地の文の変化を手がかりに
- 研究発表 バーバラ・ハートリー 武田泰淳の文学における父親のイメージ
- 研究発表 劉 銀炅 語られない韓国—高浜虚子の小説『朝鮮』
- ショートセッション 邱 春泉 『とはずがたり』巻二に描かれた「色好み女房」としての自画像とその意義
- ショートセッション カタリン・ダルミ 村上春樹『海辺のカフカ』にみる魔術的世界観の土壌
- ショートセッション 王 静 村上春樹による聖地アトスへの巡礼
- ポスターセッション 黄 昱 『徒然草』の地名新考
- ポスターセッション 呉 雪虹 漱石の『琴のそら音』—空想の思いを馳せた不安—
- ポスターセッション 田村 美由紀 戦略としての手記—太宰治『人間失格』における額縁構造と「道化」—
- ポスターセッション 大久保 美花 川端康成『抒情歌』再考—近代における“口承文芸”の可能性と限界—
- ポスターセッション 土山 玄 『うつは物語』の計量分析:「楼の上上」及び「楼の上下」における形容詞・形容動詞の量的特徴について
- ポスターセッション 田中 圭子 〈新作薫物〉の発祥と実相について—『源氏物語』は日本の薫物を変えたのか
- シンポジウム 「日本文学の越境—非・日本語でHaikuを読む／詠む—」
 司会：深沢 眞二
 パネリスト：木村 聡雄、マイケル・フェスラー、リー・ガーガ、
 鳥羽田 重直